



みやぎの明治村 とよま資料館だより

登米市歴史資料館・高倉勝子美術館
発行/冊とよま振興公社
〒987-0702
宮城県登米市登米町寺池桜小路2
Tel: 0220-52-5566
Fax: 0220-52-2630
http://toyoma.co.jp
発行日: 令和3年10月20日



《 武家屋敷 春蘭亭編 》 第6号



図1 春蘭亭外観

// 序章「春蘭亭とは何ですか？」 //

春蘭亭は、武家屋敷の雰囲気にとりながら、お茶を飲んでくつろいでいただく休憩所として整備し、平成2年3月にオープンした建物です。登米の山々に自生している春蘭を庭に植えていることから「春蘭亭」と名付けました。(図1)

町内には、武家屋敷の建物が数件残されていますが、春蘭亭以外の建物は、個人所有の建物で、現在も町民の方が居住していますので、公開していません。

春蘭亭の敷地・建物は、平成元年に鈴木家から寄贈していただきました。鈴木家が現在地に屋敷替えを命じられ、交換したのが、寛政11年(1799)10月8日(現在の11月22日頃)のことです。(図2 福島屋日記^{*}による。)

// 「築何年位の建物ですか？」 //

屋敷替え後の享和2年(1802)2月23日(現在の4月4日頃)午前4時頃に出火したことが、福島屋日記に書かれていますので、この日以後に建て直されたことと考えられます。

これを基に考えてみますと、築約219年になると思われませんが、春蘭亭は平成元年に保存・修理を行っていますので、当時は築約187年の建物だったこととなります。

// 「春蘭亭の特徴は何ですか？」 //

春蘭亭は、古式な間取り構成を示していると言われています。登米の武家屋敷の一般形式とはやや異なり、書院形式に相当するものを別棟とせず、直接母屋の上手(かみて)に取り込む「直ご家形式」(すごやけいしき)になっているのが特徴と言われています。

町内には、数件の武家屋敷が残されています。残念ながら、直接見比べることができません。しかし、門は道路から見るすることができます。違いのある門を探しながら、町を散策してみるのも楽しいかもしれません。



図2 寛政11年10月8日の福島屋日記

※福島屋日記: 「福島屋久右衛門日記」のことで、「福久田記」ともいいます。天明4年(1784)から明治12年(1879)まで、96年間のことが書かれています。

福島屋は江戸時代後期の富商ですが、天明3年(1783)の飢饉の際に、私財を投じて窮民救済活動を行ったこと等から、召し出されて、登米伊達家の家臣となりました。

読下し: 10月8日朝与日和也 東や忠治方へ
法事振廻罷越申候 戻り鈴木九郎兵衛様
高橋治太夫様屋敷替両家へ見廻申候
男澤吉兵衛様一昨日御下り候由御見廻被下

裏面もご覧ください



図3 和賀の乱戦陣図 (登米市所蔵)



図4 「鈴木将監の墓」案内板

葛西壇の墳墓は周囲約22m、高さ3.7mで葛西清基の墳墓と伝えられています。
清基は北上市周辺を治めていた和賀氏の初代和賀義行の娘婿で、没年は不明、この地で亡くなり、ここに葬られたと言われています。

鈴木家の先祖と鈴木将監重信

鈴木家は紀伊国(現和歌山県)熊野の鈴木氏から分かれた一族とされています。図3は、将監没後百年記念祭が行われた、元禄14年(1714)の時に描かれた掛け軸です。

昭和15年に発行された相去村郷土誌によると、「白石若狭(ママ相模の誤りか)宗直は六原(現岩手県胆沢郡金ヶ崎町)から兵を出し、岩崎城(現北上市和賀町)を援けた。更に宗直は、後援として馬上50騎、鉄砲300を引具し、和賀胆沢の境に近い外道河原(現夏油川)沿岸に陣を敷いた。慶長6年(1601)4月4日(現在の5月15日頃)、若狭宗直家臣鈴木将監重信、奮戦敵陣に乗り入れる事三度、敵兵を打ち取る事数多く、己も亦数ヶ所に傷手(いたで)を被(こうむ)る。殊(こと)に側腹(そばはら)の傷甚(はなは)だしく、民家に入りて傷を掩(おお)い、再び敵陣へ乗り入れる。鈴木将監馬より落ち、鬪戦(りくせん)能く(よく)つとめたるも、遂に力盡きて歿(しぬ)る。現在の葛西壇の所に鈴木将監の首を葬り、生きのびたる者は自刃(じじん)したりと傳う。」と書かれています。

登米町誌第一巻の「和賀の乱始末記」の項に、東北大学図書館に所蔵されている「登米伊達家文書」の中の「和賀氏家譜書出」によれば、「政宗は白石城攻撃に次ぐ最上援軍の多忙な戦いの最中に、わざわざ水沢まで向き、和賀忠親と対面し、武器や兵糧などを与えたことが記録されている。」と書かれています。

徳川家康と政宗の間で取り交わされていた「100万石の御墨付」は、この「和賀の乱」によって、反故にされたと言われています。

図4は岩手県北上市相去町にある、鈴木将監の墓の案内板です。この案内板は、北上市立南小学校近くの葛西氏の墳墓といわれる「葛西壇」の所に、平成13年9月24日に和賀氏400年祭実行委員会、鈴木将監400年祭実行委員会が設置したものです。

この看板には、「将監の義を重んじ、武士道を全うした生き様に和賀の人々が深く心を打たれ、岩崎の千刈田に墓を建て、その霊を祭り、相去の人々も300年祭、400年祭を懇ろに弔ってきた。」と書いてあります。

チョット一服

鈴木家は知行高6211文を賜っていたようです。1000文が1貫に相当しますので、6貫211文になります。1貫は10石に換算できますので、62石11文になり、1石は5袋(30kg/袋)になりますので、約310袋になります。

米の消費量の推移

1石(150kg)は当時の成人男性が一年間に消費する米の量に相当すると言われています。

1人当たりの米の消費量について、農林水産省が公表しているものを見ると、平成30年度では53.5kgとなっていますので、単純比較はできませんが、半分以下になっているようです。



作画:吉野美由紀

イベント情報

R3.11.2(火) ~ R4.3.31(木)

教育資料館(旧登米高等尋常小学校)

企画展「宮城県登米高等学校創立100周年の歩み」

編集後記

昨年7月に資料館だより第1号を発行してから、早いもので、1年が経ちました。

学芸員や資料館に勤務している社員が中心となって、構成・編集作業を行っていますが、掲載内容の資料収集を通して、改めて気づくことも多くあります。

古文書(こもんじょ)の解読ができれば、もっと楽しくなるのでは……?と思う時も多々あります。

鎌田

次号の告知

次号は《水沢県庁記念館編》で、来年1月に発行予定です。

宮城県が制定されてから、令和4年1月に満150年となります。これを記念して、来年4月以降に水沢県庁記念館で、企画展を開催する予定としています。



“みやぎの明治村” SNS 随時更新中です！チェックしてみてください。